

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870800145
法人名	社会福祉法人 愛美会
事業所名	グループホーム虹の里
所在地	愛媛県四国中央市上分町乙8番地73
自己評価作成日	平成22年7月31

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・お一人お一人の個性と人格を大切に思いやりのある語り合いと寄り添うケアを心がけている。
 ・年間を通して様々な行事を提供し、また、ボランティアの受け入れにて人と触れ合う機会を多く取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者にゆとりとした生活を提供することを理念に母体法人が施設の運営を始めて20数年で、施設の「稲谷祭り」が地域の季節行事に定着している。ホームの運営も12年が経過し、しっかりとこの地に根を下している。大型施設併設の機能を十分に生かし、利用者に多様性のある生活を提供している。瀬戸内海が一望できる屋上や車の往来のない広場、季節の移り変わりが実感できる広いロビー等がそれである。また、特別養護老人ホームやケアハウス等の利用者と日常的に顔を合わせられるのも、ここならではの近所づきあいであり、活気がある。一方、ホーム内は1ユニットで静かな時間が流れており、静と動のメリハリのある生活が提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム虹の里
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	森田 春美
評価完了日	平成 22年 7月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 目につく所に理念を掲げ、業務の指針としている。また、利用者の状況を踏まえた上でのより良い理念と目標を検討しつつ、職員一丸となって思考および共有し実践へとつなげている。</p> <p>(外部評価) 法人で作られている理念をより具体化するためにホームの目標を掲げ、理念の実践に努めている。ホームの目標は、玄関から入って一番目につく場所に、可愛らしいフレームに入れ、職員だけでなく利用者や家族等にも目に入るように設置し、日々新たな気持ちで確認できるように工夫をしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 法人全体でおこなう行事祭などでは、地域の方々にご参加いただき親睦と連携を深めている。また、地域の行事等にも出向いて行き情報収集に心がけ参加できる事を見つけている。</p> <p>(外部評価) 特別養護老人ホームや老人保健施設、ケアハウスなどの大規模施設の利用者とも馴染みの関係が構築できるように、施設間の行き来を日常的に行っている。デイサービスの利用者を合わせると、二百数十名が近隣者として生活していることとなり、一つの地域として豊かな交流関係が築かれている。</p>	運営推進会議で地元住民と交流が深まっていることから、管理者は利用者と共に、地域活動への参加を増やす努力を行っている。公民館活動など地元に着した活動に利用者が参加することで、新たなつながりを作ることを目的としている。現状に満足せず利用者の生活の質の向上に努める行動に今後も期待をしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議や介護教室の場において、介護保険制度および認知症ケアについての説明を行い理解を得ながら支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) グループホームでの日々の暮らしと、認知症ケアへの取組み等をパワーポイントで紹介したり、専門家や老人会の会長など様々な分野からの意見やアドバイスをいただきながらサービスに活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議の議事録からは、会議を柔軟に運営していることがうかがえる。参加者に、ホームの日々の暮らしをスライド写真で説明するなどホームのことを深く理解してもらうような取組みがされている。利用者の状態を消防団などの地域の関係者が確認できるように、リビングで会議を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 毎月、介護相談員さんが来訪してくださっている。2ヵ月に1回、市の方が運営推進会議に参加して下さっており、このたび立ち上げた市のグループホーム交流会にもアドバイザーとしての参加をいただき協力関係を築けられるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) ホームの運営は12年を経過しており、先駆者として市関係者ともに地域のグループホームの質の向上にも取り組んでいる。本年度から有志で立ち上げたグループホーム交流会の世話役を引き受け、積極的に会の運営の携わり市関係者との協力体制の構築に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) なるべく全職員が身体拘束への研修に参加し、研鑽を積み、それを全職員で共有し学び活かすようにしている。 言葉の拘束についても気を配り、否定するのではなく聞き入れる姿勢のもとケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアは母体法人が運営を始めた当初から基本としていることで、その取り組みは20年の積み重ねがある。ホームでも、法人の研修会だけでなく、認知症の場合の身体拘束となる事例を話し合い、人権の尊重を基本としたケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) なるべく研修に参加しホーム内にて報告、勉強する機会を設けている。日々の業務の中では、職員がキツイ声かけや対応になっていないか職員同士が意識し合う事により虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ制度を活用することはないが、職員全員が制度を理解できるよう研修等に参加する機会を設けていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には契約書や重要事項説明書に沿って説明している。また、退去時にはその理由を説明し、合わせて今後の対応をご家族と十分協議し理解・納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 時々のご家族さんの意見や要望を聞くこととしており、また、苦情処理箱の設置により、直接伺うことの出来ない意見なども収集できるようにしている。利用者さんにおいては、職員からの問いかけに加え介護相談員さんの問いかけ等にて集めた意見を共有し運営に活かしている。 (外部評価) 1ユニットで少人数であり、長期の利用者も多いことから、管理者は家族等から信頼されている。丁寧に傾聴している対応からもそれが理解できる。法人の施設長も家族等に積極的に声をかけ、法人全体で意見の聞き取りに力を入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回の職員会には、施設長も参加しスタッフからの意見を聞く場をつくっている。その他にも日々の申し送りや出た意見については、実践できるものは直ぐ取り入れるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は職員と共にケアに携わることで、日常の中で、職員と話し合う場面を造り出している。ケース会でもそれぞれに意見を出し合うが、日ごろの何気ない会話の中に、職員の意見を見出すことに力を入れている。職員の意見は管理者を通して法人に伝える機会もあり、やりがいのある職場の整備に力を入れている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 個々の職員の努力が、実績として残るように年2回の人事考課を通して給与水準に反映、意欲の向上に繋がるよう組織的に取り組んでいる。現場では、ケアの内容や申し送り方法・記録時間の工夫などの改善を図り職場環境、条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 経験の段階に応じた研修に参加できるように年間計画を立て実施している。学んだ事は、実践することで知識・技術の向上に努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修を通して交流を図れるように努めており、このたび設立された市のグループホーム交流会にも参加しネットワークづくりに努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前面談では、ご本人・ご家族より生活状況をお聞きし入居後も安心して過ごして頂けるよう関わりを密にした対応を心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が困っている事を十分に傾聴し、安心して利用して頂けるよう努めている。利用後も状況報告において、利用者と職員の関わりを説明しご家族との信頼関係をを深めるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族の希望を聞き、どのような支援を求めているのかを見極めながら様々なサービスの選択肢と一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は、利用者が人生の先輩として学ぶ事も多くお互いに支え合う関係をつくっている。日々の生活の中では一緒に考えたり・教えてもらう場面も多く感謝の気持ちを伝えるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には現在の状況を報告し、協力して欲しいことはお願いし共に利用者支援している。また、行事等には呼びかけを行ない参加して頂きながら、共に楽しく過ごせる時間を設けられるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの深いお寺に出かけ、ご住職のお説法を聞いたり、併設施設を利用している友人や親戚を訪ねたりしながら人との関わりを大切にしている。 (外部評価) ホームでは利用者の生活歴の聞き取りから、生まれ育った場所でのお祭りなどに利用者と共に出かけることに取り組んでいる。職員と一緒にいくことで、その場の雰囲気が理解できるため、日常の会話にもその話題を詳細に取り入れることができる。利用者の記憶を途切れさせないような取り組みとして評価できる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を十分に把握し、共に楽しく過ごせるよう橋渡しをしながらフロア内の環境づくりにも気をつけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 心身の状態の変化により他の施設に入居された時は、可能な限り利用者と共に面会に行き様子も伺っている。また、日頃の会話から要望等を実現できるように実施している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんとの一緒にゆったり過ごす時間等を利用し、思いや希望を聞いている。また、思いをスムーズに語れないとか困難を生ずる場合は日頃の生活振りやご家族さんの意見などを参考にし、把握に努めている。	
			(外部評価) 利用者の生活歴は、専用のシートに書き溜め、職員がいつでも確認できるようにしている。利用者が8名という少人数であるが、記憶違いを無くすために、全て記録化し再確認することを日常化している。利用者の理解を深める取り組みを行っており評価できる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時には、これまでの生活歴をお聞きし、入居後も日常の会話の中からご本人やご家族からお聞きした情報を共有し把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝の申し送りや夕方の記録の時間において、利用者の状態と気づき、ケアの工夫などについて伝達し合ったり、振り返りなども行い把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 日常の観察や寄り添い話しをする事などにより、ご本人さんのよりよい支援のためにケース会や日々の申し送り時などを利用し、検討を重ね日々活かすよう努めている。また、ご家族さんの協力や支援のあり方を理解いただき作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、利用者の担当職員と計画作担当者との話し合いで素案が作られ、ケース会で話し合いを行っている。管理者は、職員全員が利用者への思いが強くしつば会議は延長を余儀なくされているというが、それを頼もしく思っているようである。モニタリングには経過記録を活用しながら、専門的に見守りを行っている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個人記録表や申し送りノートにその日の様子や気づいた事を記録し共有している。また、ケアプランに沿ったケア目標を決め毎日評価している。プラン更新の際には見直しがスムーズに出来るようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 複合施設の中にあるグループホームとして、各施設の機能を活用しながらこのニーズに対応している。また、共用型認知症通所介護の取り組みは、グループホームの入居者にとってもよい刺激となっている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 併設施設の支援を受けるとともに、地域ボランティアの受け入れ・教育機関とも協働し支援をおこなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 受診の際は、できる限りご家族の付き添いをお願いし 要望を伝えられるよう支援している。また、状況に応 じてご本人やご家族が希望される医師による医療が受 けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 母体が医療機関のため、利用者や家族などの安心感が 高い。専門機関の病院へは家族との受診を基本として いるが、ホームからの支援も行っている。隣接してい る施設に看護師が常勤しており、利用者の日常的な医 療管理はもちろんのこと、緊急の場合の対応にも安心 感があり大規模施設併設の利点であると言える。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) ホームの看護師による、毎日のバイタルチェックによ り健康状態を把握し、異常のある時は相談及び指示を 仰ぎ医療機関等へ受診している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院中は病状の把握が出来るように見舞いやご家族へ の連絡を蜜に行ない、病状が安定すれば退院後の援助 について病院関係者との情報交換や相談に努めてい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時にホームの方針として指針をご本人及びご家族 に 説明し、同意を得るようにしている。また、重度化し たときは、段階ごとにご家族や医療機関・ケア関係者 等と話し合いを重ねながら検討している。</p> <p>(外部評価) 利用者の生活の質を一番に考慮し、ホームでの生活に 拘ることなく老人保健施設や特別養護老人ホームへの 移行を視野に入れつつ、法人全体で利用者の重度化や 終末期のケアを支援している。施設間で行き来がし易 いことで、他施設に移った利用者の終末ケアにホーム 職員も間接的に協力でき、利用者の安心感に繋がって いる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変や事故発生時の対応においては、マニュアルを作成し全職員が把握している。また、救命講習も受け実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の併設施設での火災訓練を実施することにより、利用者さんの避難訓練とともに職員も避難経路の見直しや安全を再検討している。また、運営推進会議においても啓発運動に努めご協力を仰いでいる。 (外部評価) 避難訓練は隣接している施設と合同で、消防署と共に大規模に行われている。消防施設の管理も専門機関が定期的に行っており、災害対策には余念がない。多くの職員が常時勤務しているため、有事の際の応援が期待でき安心感をより高めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの個性と人格を大切にし、思いやりのある語らいに努めている。また、狭い空間での日常中でもあるのでプライバシーには事のほか配慮している。 (外部評価) 職員は利用者が心地よく過ごせるように、自分の年齢や個性に合わせた親しみのある声かけを心がけている。穏やかな時間を邪魔しない配慮も感じられる。職員は利用者の人権を尊重したケアを目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思決定できない方には希望をお聞きし、意思表示が困難な方においては表情や状態から読み取り、いくつかの選択肢を用意し出来る限りご本人が決定できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように心がけている。利用者の個々の思いをお聞きし希望に添えるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服装はなるべく自分の好きなものを着てもらうように支援しており、迷っている時などは共に服選びをするときもある。また、身だしなみが不十分な時は、さりげなく直すようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理・盛り付け・片付けなど食事に関する一連の流れを利用者さんの能力に応じてお手伝いしてもらい、楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切にしている。 (外部評価) 90歳代の利用者が多いことから、食事の準備や後片付けを手伝う人は少ないが、食事の時間を楽しみにしていることがうかがえる。利用者の好みに合わせて食材を変えるなどの配慮もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の摂取量をチェックシートに記入し確認を行っている。摂取量の少ない方には盛り付けを工夫したり、代用品にてその方に合った方法で支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に歯磨きの声かけを行ない、お一人おひとりに応じた声かけや介助を行っている。また、週一回の義歯消毒をおこない清潔保持・肺炎予防に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェック表にて確認し、声かけ・誘導をおこない失敗のないように気をつけている。利用者の状態に合わせて尿とりの大きさや装着具合を変えてたり、不安や不快を与えないよう考慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄は、紙おむつからパットへ、トイレ誘導から声かけへと利用者の状態に合わせて、自立に向けて緩やかに目標を設定している。排泄に失敗はつきものであるとゆったりと構えたケアを心がけることにより、利用者の精神的な安定が図られている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>食事の献立には野菜を多く取り入れた利、水分摂取量にも気をつけている。また、散歩や体操などで身体を動かす機会を適度に設けている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎日、入浴の希望をお聞きし、午後から時間を気にせず入浴していただいている。入浴を好まない方には時間を置いたり、声かけする職員が変わってみたい工夫をしながら支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ホームでの生活が長い利用者は、それぞれのリズムがありそれに沿った入浴支援が行われている。新しい利用者には職員との相性やタイミング等を検討しながら、入浴行為がそれぞれの日常生活に、無理なく組み込まれるように支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>睡眠パターンを記録に残し把握できるようにしている。夜間の睡眠を促すためにも日中の活動を働きかけるように心がけている。寝つきの悪い方においては、時間の許す限り付き添い安心して休むよう声かけをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬一覧表にて個々の服薬状況を把握している。また、薬の説明書にて副作用等を理解し、症状が改善しなければ再度医師に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご利用者と共に家事などをする中で、得意・苦手を見極めながら支援している。その方、その時々に合わせて支援をおこなっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ごみ捨て・六地藏参りを兼ねての散歩は日課となっており楽しみの一つとなっている利用者も少なくない。また、併設施設の入居者と出かける機会もあり、ご家族の計画で外出していただける事もある。	
			(外部評価) 買い物や外食などの外出は車の手配が必要であるため、頻回に行くことは難しいが、広い庭への散歩や、バルコニーや屋上での日光浴等を日々のケアに取り入れている。また、施設には広いロビーがあり、雨の日でも気分転換が図れ、利用者には喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 病状的に、ご本人の管理が難しいため基本的には預かりとしているが、買い物の際は可能な限りご自分で支払いできるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 季節に合わせた挨拶状をお送りしたり、要望に応じて電話の取次ぎもおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共に生活する中で空調や臭い、音・光などは調整をおこない不快を与えないよう配慮している。また、四季折々の飾り付けをして季節感を取り入れるよう工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 共用空間を家具の配置で、ダイニングとリビングに区切り、生活のシーンでうまく使い分けている。リビングは面積的に余裕があり利用者にゆっくり寛いでもらうことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 皆で過ごせるフロア。一人になれる自室。気の合う利用者と過ごせる場所にと椅子を置き精神的なバランスをたもてるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使用していたものを持ち込む利用者は少ないが、ご自分やご家族の写真を飾っていただき安心して過ごしていただける環境づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵などが個性豊かに飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ご本人が迷って混乱が見られるような時は、メモ書きを残し説明をしたり、自室入り口やトイレなどにはプレートを掲げわかりやすくしている。夜間は照明の明るさに気をつけ安全な環境を整えている。</p>	